

会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの実績と傾向

	タイトル	主催者	開催時期	イベントタイプ
1.	国連気候変動枠組条約第 15 回締約国会議 (COP15)	国連事務局、ホスト国 (デンマーク政府)	2009/12/7-18	国際会議 ・屋内 ・参加者事前登録制 ・15000 人規模
2.	地球温暖化アジア太平洋地域セミナー (Asia-Pacific Seminar on Climate Change)	環境省 (日本)、オーストラリア気候変動・省エネルギー省、北九州市	2010/7/20-22	国際会議 ・屋内 ・参加者事前登録制 ・50 人規模
3.	2010 年度市民のための環境公開講座 (全 12 回)	社団法人日本環境教育フォーラム、財団法人損保ジャパン環境財団、株式会社損害保険ジャパン	2010/7/6-12/7 (内、12 日間)	国内会議 ・屋内 ・参加者事前登録制 ・3000 人規模 (定員 250 人×12 回)
4.	会議・イベントにおけるカーボン・オフセット検討会	環境省	2010/8/26	国内会議 ・屋内 ・参加者事前登録制 ・100 人規模
5.	全日本大学駅伝対校選手権大会	(社) 日本学生陸上競技連合・朝日新聞社・テレビ朝日・メ〜テレ	2009/11/1	スポーツ大会 ・屋外 ・不特定多数の参加 ・全国から参加
6.	年賀寄附金誕生 60 周年記念シンポジウムと都響とティーンズのジョイントコンサート	郵便事業株式会社	2009/7/23	コンサートなど ・屋内 ・参加者事前登録制 ・2000 人規模
7.	エコプロダクツ 2009	(社) 産業環境管理協会、日本経済新聞社	2009/12/10-12	展示会 ・屋内 ・参加者登録制 ・18 万人規模
8.	カーボン・オフセット EXPO	環境省	2010/9/6	展示会 ・屋内 ・参加者事前登録制 ・500 人規模
9.	第 30 回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～	豊かな海づくり大会推進委員会、岐阜県	2010/06/12-13	自治体・企業・市民による式典・行事・イベント ・屋内および屋外

				<ul style="list-style-type: none"> ・参加者事前登録制 ・3000人規模
10.	福山ばら祭 2009	福山祭委員会	2009/5/15・16	市民まつり <ul style="list-style-type: none"> ・屋外 ・不特定多数の参加 ・80万人

※当事例は、ウェブサイトや一部関係者のヒアリングを実施し作成しております。そのため、一部不明な箇所や表記方法が一樣ではない箇所があります。

1.気候変動枠組条約第15回締約国会議 (COP15)

第15回の気候変動枠組条約締約国会議が2009年12月7日から18日の日程でデンマーク・コペンハーゲンにて開催された。同会議においてはホスト国のデンマーク政府によりカーボン・オフセットが実施されている。

イベント情報	主催者		開催時期	
		UNFCCC Secretariat 及びデンマーク政府		2009/12/7-18
算定範囲 (詳細は 次ページ 参照)	対象項目	算定量		算定実施者
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動 ・ 会場の消費電力及び 燃料 ・ ホテル宿泊 	(1) 40,500 トン (COP14 算定値より外挿推計；国 際旅客含む) (2) 6,000 トン ※事前算定は 5,700 トン (国際旅客を含めない) (3) 1,687 トン (UNFCCC Secretariat 関係者の み)		(1) UNFCCC、デンマーク政府 (2) Deloitte Touche Tohmatsu (3) UNFCCC
バウンダ リ情報	対象項目	オフセット (量・割合)		オフセット負担者
	算定範囲と同じ	100%		デンマーク政府 UNFCCC Secretariat
削減努力 の実施	準備	当日	撤収	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物品調達の際、継続 性のある環境行動 をとる業者を選定 ・ スタッフへの削減努 力義務徹底 ・ 削減努力予算の事前 確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省電力照明を使用 ・ プリンターの共同利用 ・ 再生紙の使用 ・ グリーン電力の購入 ・ VOIP (Voice Over IP) を用い た現地交通のガイド ・ 必要に応じてテレビ会議の実施 (移動による排出を低減) 	—	
情報提供	準備	当日	撤収	
	ウェブサイトによる告知； UNFCCC ウェブサイト デンマーク政府 外務省 (Ministry of Foreign Affairs of Denmark) ウェブサイト デンマーク政府 エネルギー省 (Danish Energy Agency) ウェブサイト キャンペーン実施； The "One Tonne Less" campaign (デンマーク政府)			
クレジット 調達	オフセット量	クレジット種類		プロジェクト情報
	50,000 トン (デンマー ク政府)	CER		バングラディッシュ国 高効率 型レンガ製造用キルン転換 PJ

参考

1. UNFCCC ウェブサイト Environmental Responsibilities of the Secretariat
http://unfccc.int/secretariat/environmental_responsibilities/items/3539.php
2. UNFCCC ウェブサイト Fact sheet: Copenhagen – Background information

http://unfccc.int/press/fact_sheets/items/4975.php

3. デンマーク政府 外務省ウェブサイト

<http://www.um.dk/en/>

4. デンマーク政府 エネルギー省ウェブサイト

<http://www.ens.dk/en-US/Sider/forside.aspx>

5. Deloitte Touche Tohmatsu: COP15 Carbon foot print Approach and Methodology

<http://www.e-pages.dk/visitdenmark/472/21>

算定の実施・・・前表（２）Deloitte Touche Tohmatsu

バウンダリ		事前	事後
交通	タクシー	算定実施 ・ホテルから会議場までの往復距離を、ホテルの予約状況により得た参加者数を用いて算定 ・デンマーク政府により、警護が必要な要人を調査し、リムジン使用台数を推定し算定 ・デンマーク国内の排出係数データベースを用い各バウンダリに対し算定	算定実施 算定範囲に関しては事前算定と同様。 ※なお当算定に当たっては参加者のうち411名を抽出しインタビューを実施し、交通利用状況概要を把握し算定に用いた
	乗用車		
	リムジン		
	ディーゼル列車		
	電車		
	トラック		
会場	非常設会場の燃油及び電力消費量	算定実施 ・計画規模を基に算定	算定実施 実測による電力使用量×GHG 排出係数
	既築会議場の燃油及び電力消費量	算定実施 ・主要会場である Bella Center の過去統計データにより算定	算定実施 実測による電力使用量×GHG 排出係数
	紙の使用量及び提供された飲食物	算定実施 ・主要会場である Bella Center の過去統計データにより算定	算定実施 実測による電力使用量×GHG 排出係数
宿泊	ホテルのガス及び燃油の使用量	算定実施 ・ホテルの予約状況により推計 ※人数及び宿泊日数は COP14 データにより推計	算定実施 算定範囲に関しては事前算定と同様。 ※デンマーク政府により56ホテルに関してデータを取得。うち7ホテルはデータ提供が不十分であった。また参加者のうち、ホテル以外の宿泊（個人宅、ユースホステル等）に関しては、デンマークの家庭における一人あたりの平均排出量を用いた。なお当算定に当たっては参加者のうち411名を抽出しインタビューを実施し、前出の算定を選択した。
	ホテルの電力使用量		
	ホテルリネンサービス（外注した場合）		

2.地球温暖化アジア太平洋地域セミナー (Asia-Pacific Seminar on Climate Change)

環境省は、アジア太平洋地域 15 カ国・地域及び国際機関等 11 機関から、約 50 名の専門家とともに、アジア太平洋地域の間で地球温暖化問題に関する情報や意見交換を行うことを目的として、豪州気候変動・省エネルギー省、海外環境協力センター（OECC）との共催により、北九州市において当セミナーを開催した。

イベント 情報	主催者（開催ホスト国）		開催時期
	環境省（日本）、オーストラリア気候変動・省エネルギー省、北九州市		2010/7/20-2010/7/22
算定範囲 （詳細は 次ページ 参照）	対象項目	算定量	算定実施者
	海外参加者の交通移動（主要排出源）	19.451 トン	OECC
	国内参加者の交通移動	2.823 トン	
	事務局の交通移動	1.597 トン	
	視察での交通移動	0.007 トン	
	会場での電気、	0.465 トン	
	会場でのガス利用	2.717 トン	
	会場での廃棄物	0.006 トン	
バウンダ リ情報	対象項目	オフセット（量・割合）	費用負担者
	検討中	検討中	環境省
削減努力	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者に対する公共交通機関の利用の呼びかけ ・ 会場担当者への電力使用量・廃棄物量の削減協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場内の冷房温度の調整 ・ 提供する食事量の調整 	特になし
情報提供	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話連絡：会場担当者への電力使用量等の提供依頼（来日に係る交通は日本側で管理するため、参加者に対する連絡はなし。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場アナウンス：本会議開催に係る GHG 排出量は後日オフセットすると周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブページ：会議開催に係る排出量およびオフセット量・手法の報告予定
クレジット 調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	検討中	検討中	検討中

参考

1. 地球温暖化アジア太平洋地域セミナー公式ウェブサイト

※カーボン・オフセットについては下記ウェブページに後日掲載予定。

<http://www.climateanddevelopment.org/ap-net/seminar/h01.html>

算定の実施

(算定範囲・データ収集・算定方法)

算定範囲		事前	事後
交通	主催者等	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施 標準ルート×燃料消費率×GHG排出係数
	招聘者	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施 標準ルート×燃料消費率×GHG排出係数
	スタッフ	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施 標準ルート×燃料消費率×GHG排出係数
電力	会場	算定不可 (初の会場にて実績値がなく、データ未確定)	算定実施 月間電力使用量を使用時間、面積比で案分して算定
ガス	会場	算定不可 (初の会場にて実績値がなく、データ未確定)	算定実施 月間ガス使用量を使用時間で案分して算定
ゴミ	会場	算定不可 (初の会場にて実績値がなく、データ未確定)	算定実施 固有地×GHG排出係数

3. 2010 年度市民のための環境公開講座

当講座は、環境問題の今をとらえ、ひとりひとりが問題解決の行動につなげていただくことを目的に、1993年にNGOと企業のパートナーシップ事業の先駆けとしてスタート。今年で18年目を迎え、これまでに延べ1万5千人に参加した。2010年度は「市民生活と環境問題の全体像」「日本の文化と生物多様性の調和」「国際交渉の真実に迫る」「NPO・NGOが動かす世界」の4つのパートを設定し、全12回、各パート250名の受講者を募集している。

イベント 情報	主催者（開催ホスト国）		開催時期
	社団法人日本環境教育フォーラム 財団法人損保ジャパン環境財団 株式会社損害保険ジャパン		2010/7/6 ~ 2010/12/7 (内、12日間)
算定範囲 (詳細は 次ページ 参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	・会場の電気エネルギー ・冷水機による熱エネルギー	-	(株) 損害保険ジャパン
バウンダ リ情報	対象項目	オフセット (量・割合)	費用負担者
	算定範囲と同じ	10.868 トン (26000kWh) ※	(株) 損害保険ジャパン
削減努力	事前	当日	事後
	・ 最寄駅から徒歩圏内の会場利用により公共交通機関の利用を促進。	・ 会場内の空調の適切な温度の管理 ・ ゴミ箱を設置しないとともにより不要な資料を配布しないことによりごみが発生しない環境を構築している。 ・ チャレンジ25を通じた室温管理を実施している。	・ 特になし
情報提供	事前	当日	事後
	・ プレスリリース・チラシ：温室効果ガス削減のため、「チャレンジ25キャンペーン」に賛同し、室温を調整していることを周知、および太陽光発電によるグリーン電力を利用して運営することを周知。	・ グリーン電力証書を会場に掲示	・ 特になし
クレジット 調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	26,000KWH	グリーン電力証書	太陽光発電

※事務局にて26000 kWhに会場が立地から東京電力の排出係数0.000418tCO₂/kWhを掛け合わせてCO₂を算出。

参考：

1. ニュースリリース (2010年6月8日)

http://www.sompo-japan.co.jp/news/download/20100608_1.pdf

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
電力	会場の電気	算定実施 全灯の月間電力使用量 ÷ 1 灯 × 使用した灯数	算定せず (事前に一定の使用量が特定でき、算定およびグリーン購入証書を調達したため、事後には実施せず)
熱	会場の冷水機	算定実施 ビル管理者に照会した 1 時間 あたりの冷水量 × GHG 排出係数	算定せず (事前に一定の使用量が特定でき、算定およびグリーン購入証書を調達したため、事後には実施せず)

4. 会議・イベントにおけるカーボン・オフセット検討会

環境省では、信頼性のあるカーボン・オフセットの取組を推進するために、会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの適切なカーボン・オフセットのあり方について、一定の指針を示すために検討会を実施するとともに、当検討会に伴って排出されたCO₂をオフセットすることとした。

※当事例は、第二回検討会におけるデータを使用したものである。

イベント情報	主催者		開催時期
	環境省		2010/8/26 (木)
算定範囲 (詳細は次ページ参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	検討委員の交通移動	0.003 トン	OECC
	傍聴者の交通移動	0.09931 トン	
	事務局の交通移動	0.00325 トン	
会場での電気、ガス利用	0.30402 トン		
バウンダリ情報	対象項目	オフセット (量・割合)	費用負担者
	算定範囲と同様	0.41035 トン	環境省
削減努力	事前	当日	事後
	・公共交通機関の利用の呼びかけ ・クールビズ(軽装)の呼びかけ	・公共交通機関の利用の呼びかけ ・会場のエアコンを28℃に設定 ・クールビズ(軽装)の実施	特になし
情報提供	事前	当日	事後
	・プレスリリース：公共交通機関の利用、およびクールビズの呼びかけを実施	・当日のアナウンス：オフセットの実施について	・ウェブサイト：環境省の基準・ガイドライン類に基づいた情報提供を実施
クレジット調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	0.41035 トン	J-V E R	未定

参考：

1. プレスリリース(第2回会議・イベントにおけるカーボン・オフセット検討会)の開催について) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=12828>

算定の実施

算定範囲		事前	事後
交通	検討委員	算定実施 参加登録データによる標準的旅客移動距離×燃料消費率×GHG排出係数	算定実施 同左
	傍聴者	算定実施 参加登録データによる標準的旅客移動距離×燃料消費率×GHG排出係数 ※参加申込時に傍聴者の交通ルートを確認し使用。	算定実施 当日受付をした参加登録データによる標準的旅客移動距離×燃料消費率×GHG排出係数 ※参加申込時に傍聴者の交通ルートを確認し使用。
	事務局等	算定実施 参加登録データによる標準的旅客移動距離×燃料消費率×GHG排出係数 ※鉄道利用を想定	算定実施 参加登録データによる標準的旅客移動距離×燃料消費率×GHG排出係数 ※タクシーの利用については、 (乗車料金帯平均輸送距離×営業用乗用車の走行キロ燃費×GHG排出係数)を使用
電力	会場（主要排出源）	算定実施 過去の実績をもとに算定	算定実施： 月間電力使用量を使用時間、および面積比で案分して算定

5. 全日本大学駅伝対校選手権大会

名古屋の熱田神宮～三重の伊勢神宮における8区間106.8キロメートルを全国25大学と東海学連選抜の合計26チームにより競う駅伝大会。第41回を迎える当大会の環境テーマを「意識の啓蒙」から「リアルアクション」としオフセットの理解を促進した。

イベント情報	主催者	開催時期	
	(社) 日本学生陸上競技連合・朝日新聞社・テレビ朝日・メ～テレ	2009/11/01	
算定範囲(詳細は次ページ参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	<ul style="list-style-type: none"> ・中継所等設営の機材移動に係る輸送、設営電力 ・開会式(リハーサル)に係る電力 ・関係者の宿泊 ・併走車及び中継車・中継ヘリの燃料及び電力(リハ-ル) ・開会式・閉会式に係る電力 ・併走車及び中継車・中継ヘリの燃料及び電力(主要排出源) ・電波中継基地における消費電力 ・飲食物に係る容器製造 ・中継所等撤去の機材移動に係る輸送、撤去電力 ・廃棄物処理等に係る輸送及び処理 	50トン	株式会社アサツーディ・ケイ
バンドリ情報	対象項目	オフセット(量・割合)	オフセット負担者
	算定範囲と同じ	50トン(昨年実績の153%)	社団法人日本学生陸上競技連合と株式会社アサツーディ・ケイ
削減力の実施	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に向けてのカーボン・オフセットの啓蒙(大会主催者側から学生や大会関係者に対し、監督会議・インターネットを活用した当大会のコンセプト説明、宿泊時の節電・節水、記録紙の削減等の呼び掛けを実施) ・アスリートバッグのリサイクル原料使用 ・造作物の再利用 ・廃棄物の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・併走車のエコカー利用 ・ペーパーレス活動の促進 ・沿道の応援小旗廃止、 ⇒記録については携帯電話の活用により電子データで配信等(学生側による自主的な取組み) 	
情報提供	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事でのカーボン・オフセットの告知(朝日・日刊スポーツ) ・大会パンフレット ・大会ホームページ ・データ放送(地デジ・ワンセグ) ・TVCM 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会ホームページ ・データ放送(地デジ・ワンセグ) ・TVCM 	
クレジット調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	50トン予定	CER	未定

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
交通	主催者等	算定不可 (参加者データ特定不能)	算定せず (参加者データ特定不能)
	招聘者(出展者)	算定不可 (参加者データ特定不能)	算定せず (参加者データ特定不能)
	一般参加者・不特定多数参加者	算定不可 (参加者データ特定不能)	算定せず (参加者データ特定不能)
	スタッフ	算定不可 (参加者データ特定不能)	算定せず (参加者データ特定不能)
電力	会場(開会式/閉会式/リハーサル含)	算定実施 昨年度実績から算定	算定不可 (データ特定不能)
	大会関係者の宿泊	算定実施 昨年度実績から算定	算定不可 (データの精度が統一不能)
	リハーサル時の飲食	算定実施 昨年度実績から算定	算定不可 (データの精度が統一不能)
	電波中継基地における消費電力/ 中継所等設営電力/中継所等撤去電力/併走車及び中継車・中継ヘリの電力(リハーサル)	算定実施 昨年度実績から算定	算定実施 実測に基づく電力量×当該地域のGHG排出係数
水	上下水道における排出	算定実施 昨年度実績から算定	算定不可 (データ特定不能)
燃料	中継ヘリ(主要排出源)	算定実施 昨年度実績から算定	算定実施 実測に基づく燃料使用量×単位発熱量×GHG排出係数
	・廃棄物処理等に係る輸送	算定実施 昨年度実績から算定	算定実施 実測に基づく燃料使用量×単位発熱量×GHG排出係数
	中継所等設営の機材移動に係る輸送、中継所等撤去の機材移動に係る輸送/併走車及び中継車燃料	算定実施 昨年度実績から算定	算定実施 実測に基づく燃料使用量×単位発熱量×GHG排出係数
ゴミ	飲食物に係る容器製造などの廃棄物処理	算定実施 昨年度実績から算定	算定実施 実測に基づく廃棄物発生量×GHG排出係数

※認証申請時に算定範囲の対象としていた開会式の照明等の会場からのエネルギー使用、および上下水道における排出はデータが収集できず、算定が不可能だった。また、大会関係者の宿泊にともなうエネルギー使用量とリハーサル時の飲食に伴うエネルギー使用量は、算定者がプロではなかったため同一レベルでデータ収集が不可能であったため、算定が不可能だった。

6. 年賀寄附金誕生 60 周年記念シンポジウムと都響と ティーンズのジョイントコンサート

60周年を迎えた年賀寄附金の式典として助成団体である都響と共催で記念シンポジウムと都響とティーンズのジョイントコンサートを開き、年賀寄附金に加わったカーボン・オフセットはがき寄附金にちなみ、カーボン・オフセット・イベントとした。

イベント 情報	主催者	開催時期	
		郵便事業株式会社	2009/07/23
算定範囲 (詳細は 次ページ 参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者・参加者の移動 ・開催時・リハーサル時の会場使用電力（主要排出源） ・楽器・資材の搬入・運搬からの燃料 ・当日の廃棄物 ・印刷物 ・その他に伴う CO2 排出 	1.749 トン	郵便事業株式会社
バウンダ リ情報	対象項目	オフセット（量・割合）	オフセット負担者
	算定範囲と同じ	2 トン（100%）	郵便事業株式会社
削減努力 の実施	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボン・オフセット・イベントとすることの宣言により主催者・関係者における CO2 排出削減意識を高めた ・一般来場者へもカーボン・オフセット・イベントを周知することにより排出の少ない交通手段を用いる努力、日常の排出削減努力をしてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消灯等 CO2 排出削減のできることを見つけて努力した。 ・カーボン・オフセット・イベントとすることの宣言により主催者・関係者における CO2 排出削減意識を高めた ・一般来場者へもカーボン・オフセット・イベントを周知することにより排出の少ない交通手段を用いる努力、日常の排出削減努力をしてもらった。 	—
情報提供	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト：イベント・オフセット実施の経緯を紹介 ・パンフレット：カーボン・オフセットとは、排出量の算定、オフセットの方法、問い合わせ先等掲載について 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日のアナウンス：カーボン・オフセットの実施の周知 ・ウェブサイト：イベント・オフセット実施の経緯を紹介 ・パンフレット：カーボン・オフセットとは、排出量の算定、オフセットの方法、問い合わせ先等掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト：イベント開催報告、排出量事後算定結果、クレジット無効化の経緯、国内にて創出されたオフセット・クレジット（J-VER）の活用の提供者との協働広報、主催者としての取組アピールの情報発信
クレジット 調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	2 トン	J-VER	高知県木質エネルギー活用プロジェクト

参考 1. 郵便 CSR ブログ：<http://blog.post.japanpost.jp/csr/2009/07/23/>

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
交通	主催関係者 (楽団員など含む)	算定実施 主催関係者人数×標準的旅客移動距離×燃料賞比率×GHG排出係数	算定実施 (同左)
	一般参加者・不特定多数参加者	算定実施 チケット売り上げ数から導く参加者人数×標準的旅客移動距離×燃料賞比率×GHG排出係数	当日のチケットの半券回収に基づく参加者データから導く標準的旅客移動距離×燃料消費率×GHG排出係数
電力	会場 (コンサートホール・大会議室・控室等)	算定実施 ・コンサートホール： 施設に照会した施設全体のコンサートの無い日の平均電力使用量－施設に照会したコンサート開催日の平均電力使用量)×GHG排出係数 ・大会議室・控室等： 施設全体の電力使用量×面積比×GHG排出係数	算定実施 ・コンサートホール： メータ確認による電力使用量×GHG排出係数 ・大会議室・控室等： 同左施設全体の電力使用量×面積比×GHG排出係数
燃料	運送	算定実施 運送会社当へ照会した車両手配台数過去実績×平均燃料	算定実施 実際に使用した4トン(ロング)車1台×当日の移動距離×排出係数(運送会社に照会)
ゴミ	会場	算定実施 (参加者人数×一人あたりの資料配布枚数+参加者人数×懇親会での標準的一人当たり廃棄物量)×GHG排出係数	算定せず (事前に把握できていたため、事後算定は実施しなかった。)
紙		算定実施 印刷会社等への照会によりシンポジウム関係印刷資料の重量×原単位(CREST 安井チームウェブページより1.37とした)	算定せず (事前に把握できていたため、事後算定は実施しなかった。)

7. エコプロダクツ 2009

国内最大級の環境展示会であるエコプロダクツでは、CO2 排出量の継続的な削減を目的とし、東京都市大学伊坪研究室協力のもと、エコプロダクツ 2009 における CO2 排出量測定調査として実施した。

イベント 情報	主催者	開催時期	
	(社) 産業環境管理協会、日本経済新聞社	2009/12/10~12	
算定範囲 (詳細は 次ページ 参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	<ul style="list-style-type: none"> ・会場における電力、ガス、水道、ゴミ ・来場者の移動、宿泊 ・主催者の設営・運営・撤去、主催者企画、印刷物、広告等 ・出展者による全般的排出量 	4,773 トン	東京都市大学 伊坪研究室
バウンダ リ情報	対象項目	オフセット (量・割合)	オフセット負担者
	・会場における電力	58.52 トン (140,000kWh) ※	不明
削減努力 の実施	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮ガイドライン 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルパンチカーペットの利用促進 ・主催者によるリターナブル容器を使用 ・エコプロゴミゼロ大作戦 ・来場事前登録者の入場証のバーコード化 ・配布資料の PDF ダウンロード ・環境に配慮した用紙や印刷技術の利用 ・「間に合ってます」マーク ・LED 照明器具 	<ul style="list-style-type: none"> ・出展者によるエコチェックシート提出 ・主催者による展示装飾などのリサイクルプログラム ・エコプロゴミゼロ大作戦
情報提供	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト、ガイドラインなど：環境配慮の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場での ・当日のアナウンス：カーボン・オフセットの実施の周知 ・ウェブサイト：イベント・オフセット実施の経緯を紹介 ・パンフレット：カーボン・オフセットとは、排出量の算定、オフセットの方法、問い合わせ先等掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト：イベント開催報告、排出量事後算定結果の公表
クレジット 調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	58.52 トン (140,000kWh) ※	グリーン電力	バイオマス、太陽光発電など

※事務局にて 140,000kWh に会場が立地から東京電力の排出係数 0.000418tCO₂/kWh を掛け

合わせて CO2 を算出。

参考

1. エコプロダクツ 2009 公式ウェブサイト
2. 平成 21 年度エコプロダクツ展環境評価支援業務報告書
http://eco-pro.com/eco2010/results/img/2009report_comp.pdf

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
交通	一般参加者	算定実施 飛行機・鉄道・ゆりかもめ・バス・シャトルバス、乗用車の昨年度のアンケート結果をもとに推計	算定実施 約 1500 件のアンケート調査（無作為抽出）を基に、約 18 万人の拡大推計を行ったが、サンプル数がゼロの都道府県も見られた。また、外国からの来場者は含まれていない。
電力	会場	算定実施 見込みで推計	算定実施 会場関係者からの聞き取りによる電力使用量 × GHG 排出係数
宿泊	一般参加者	算定実施 昨年度のアンケート結果をもとに推計	算定実施 を基に、約 18 万人の拡大推計を行ったが、サンプル数がゼロの都道府県も見られた。また、外国からの来場者は含まれていない。
ガス	会場	算定実施 昨年度と同程度と推計	算定実施 会場関係者からの聞き取りによる電力使用量 × GHG 排出係数
水道	会場	算定実施 昨年度と同程度と推計	算定実施 会場関係者からの聞き取りによる電力使用量 × GHG 排出係数
ゴミ	会場	算定実施 昨年度と同程度と推計	算定実施 会場関係者からの聞き取りによる電力使用量 × GHG 排出係数
その他	主催者の設営・運営・撤去、主催者企画、印刷物、広告等にかかわる排出量	算定実施	算定実施 主催者が管理する基礎データ（物量および金額）より項目の網羅性を担保すると共に、これを環境負荷の算定に活用し、設営・運営・撤去、主催者企画について、経費内訳書から算定
その他	出展者による全般的排出量	算定実施 昨年度と同程度と推計	算定実施 出展者からのヒアリングを通じて、5 小間以下 6 小間以上の別に、各活動区分の 1 小間あたり排出量の平均値より拡大推計した。

8. カーボン・オフセットEXPO

カーボン・オフセットEXPOは、環境省により、J-VER 普及促進のため、カーボン・オフセットに取り組む事業者と J-VER プロジェクト事業者の交流の場として開催された。

イベント情報	主催者	開催時期	
	環境省	2010/09/06	
算定範囲 (詳細は次ページ参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	・参加者・関係者の移動(主要排出源) ・会場の電力	4トン(予定)	カーボン・オフセットフォーラム(J-COF)
バウンダリ情報	対象項目	オフセット(量・割合)	オフセット負担者
	算定範囲と同じ	4トン(100%)	環境省
削減努力の実施	事前	当日	事後
	・公共交通機関の利用のよびかけ	・配布が必要な資料は受付時に手渡しし、それ以上にチラシを配ることを控えた(ペーパーレス化の実施)	
情報提供	事前	当日	事後
	・ウェブサイト:カーボン・オフセットの実施および協力の依頼、公共交通機関利用の呼びかけ ・チラシ:カーボン・オフセットの実施および協力の依頼、公共交通機関利用の呼びかけ	・当日のアナウンス:カーボン・オフセットの実施の周知 ・ウェブサイト:カーボン・オフセットの実施および協力の依頼、公共交通機関利用の呼びかけ ・チラシ:カーボン・オフセットの実施および協力の依頼、公共交通機関利用の呼びかけ	・イベント後の情報提供ガイドラインで求められている全ての情報(カーボン・オフセットに関する説明、オフセットの対象、算定量、クレジットの説明、プロジェクト情報、販売事業者情報など)を掲載予定
クレジット調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	4トン予定	J-VER	未定

参考

- 第1回 カーボン・オフセットEXPO 公式ウェブサイト
http://www.j-cof.org/temporary/offset_expo_201009.html

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
交通	主催者等	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施： 参加登録データから導く標準的旅客移動 距離×燃料消費率×GHG排出係数
	招聘者（出 展者）（主 要排出源）	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施： 参加登録データから導く標準的旅客移動 距離×燃料消費率×GHG排出係数
	一般参加 者・不特定 多数参加者	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施： 参加登録データから導く標準的旅客移動 距離×燃料消費率×GHG排出係数
	スタッフ	算定不可 (参加者データ未確定)	算定実施： 参加登録データから導く標準的旅客移動 距離×燃料消費率×GHG排出係数
電力	会場	算定不可 (初会合にて実績値がなく、デ ータ未確定)	算定実施： 月間電力使用量を使用時間、および面積比 で案分して算定
ゴミ	会場	算定不可	算定不可

9. 第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～

都道府県大会初の環境省後援のもと、新たに「環境」もテーマとした大会として、「水を守る」、「地球を守る」ことをアピールするとともに、参加者や関係者に地球温暖化防止等への意識づけを図る有効な手段のひとつとして、大会史上初めてカーボン・オフセットに取り組んだ。

イベント情報	主催者	開催時期	
	豊かな海づくり大会推進委員会、岐阜県	2010/06/12、13	
算定範囲 (詳細は次ページ参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	<ul style="list-style-type: none"> ・式典行事会場・放流・歓迎行事会場 ・大型バス輸送、自家用車 ・JR、飛行機（主要排出源） ・弁当ゴミ等焼却 	29.7トン	豊かな海づくり大会推進事務局
バウンダリ情報	対象項目	オフセット（量・割合）	オフセット負担者
	算定範囲と同じ	募金 230,567 円を J-VER 購入費用にあてる予定	子供を除く大会参加者約 2300 人およびスタッフ約 800 人による募金
削減努力の実施	事前	当日	事後
	—	・自家用車での来場を制限したパークアンドライドによる輸送など	—
情報提供	事前	当日	事後
	<ul style="list-style-type: none"> ・プレスリリース：カーボン・オフセットの実施について ・ウェブサイト：カーボン・オフセットの実施について 	<ul style="list-style-type: none"> ・募金の呼びかけのためのチラシ：カーボン・オフセットの取組について ・ウェブサイト：カーボン・オフセット実施について 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレスリリース：大会開催に伴う二酸化炭素発生量のとりまとめ結果及びカーボン・オフセット募金の結果について ・ウェブサイト：上記プレス内容、および J-VER 購入後、その内容を掲載予定
クレジット調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	未定（募金 230,567 円で購入可能な J-VER 量予定）	J-VER	未定

参考

- 第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～
<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11438/umisite/index.htm>
- プレスリリース：大会開催に伴う二酸化炭素発生量のとりまとめ結果及びカーボン・オフセット募金の結果について
<http://www.pref.gifu.lg.jp/contents/news/release/H22/z00000614/files/hp.pdf>

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
交通	主催者・関係者等	算定実施 事前の参加登録データおよび招待者から自家用車・JR・飛行機利用を推計した標準的移動距離×燃料消費率×GHG排出係数	算定実施 実測による自家用車（登録制）、および登録者住所から導いたJR・飛行機利用の標準的移動距離×燃料消費率×GHG排出係数
	一般参加者・不特定多数参加者	算定実施 事前の参加登録データおよび招待者から自家用車・JR・飛行機利用を推計した標準的移動距離×燃料消費率×GHG排出係数	算定実施 実測による自家用車（登録制）、および登録者住所から導いたJR・飛行機利用の標準的移動距離×燃料消費率×GHG排出係数
電力	会場	算定実施 月間電力使用量を使用時間、および面積比で案分して算定	算定実施 事前算定と同じ
ゴミ	弁当ゴミ等焼却	算定実施 事前参加登録データおよび招待者から発注する弁当の数×1つあたりの重さ×GHG排出係数	算定実施 参加登録データから発注した弁当の数×1つあたりの重さ×GHG排出係数

10. 福山ばら祭 2009

広島県福山市民と行政が一体となって取組んでいるばらづくりにより、福山市内には約 55 万本のばらが咲き誇っており、ばら祭が市内複数個所にて行われた。また、温暖化対策事業「スクラムふくやま☆エコトライ」の一環で「カーボン・オフセット」が実施された。

イベント情報	主催者	開催時期	
	福山祭委員会	2009/05/16、17	
算定範囲 (詳細は次ページ参照)	対象項目	算定量	算定実施者
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場で使用した電気、軽油 ・ シャトルバスで使用した燃料 ・ 参加者が使用した家用車の燃料（主要排出源） 	約 14.6 トン	—
バウンダリ情報	対象項目	オフセット（量・割合）	オフセット負担者
	算定範囲と同じ	11 トン（約 75%）	参加者（468 名が 53,333 円を募金）
削減努力の実施	事前	当日	事後
	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみゼロの取組 ・ シャトルバスのアイドリングストップを実施 	—
情報提供	事前	当日	事後
	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場にてカーボン・オフセット募金の呼びかけを実施 ・ 募金協力者に対しカーボン・オフセット協力証を配布し、カーボン・オフセットの説明を実施 ・ 会場でカーボン・オフセットの認知度についてアンケートを実施（203 名の協力を得られた） ・ ウェブサイト：カーボン・オフセット実施について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブサイト：大会開催に伴う二酸化炭素発生量のとりまとめ結果及びカーボン・オフセット募金の結果、アンケート結果、クレジット証書などを公表
クレジット調達	オフセット量	クレジット種類	プロジェクト情報
	11 トン	CER	韓国のガンウォン風量発電

参考

1. 福山市役所ウェブサイト：福山ばら祭 2009 におけるカーボン・オフセットの取組結果について

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/life/detail.php?hdnKey=5096>

算定の実施

バウンダリ		事前	事後
交通	一般参加者による自家用車の移動	—	算定せず 駐車台数から統計より普通自動車・軽自動車の割合を算出×平均走行距離÷平均燃料消費率×GHG 排出係数
	会場間の移動に伴うシャトルバス	—	算定実施 往復の運行本数×平均走行距離÷バスの平均燃料消費率×GHG 排出係数
電力	会場で使用したイルミネーションによる電気	—	算定実施 実測による電力使用量×GHG 排出係数
燃料	会場で使用した仮説電源の軽油	—	算定実施 実測による軽油使用量×GHG 排出係数